



第7章

岐阜市の自然



1 長良川

郡上市高鷲地区の大日岳から伊勢湾に注ぐ全長166kmの清流長良川は、岐阜市の中心を流れ、岐阜城・金華山と並ぶ岐阜市のシンボリック存在。岐阜市を含む長良川（中流域）は「名水百選」に選ばれ、いつも豊富な水量をたたえ、とうとうとゆるやかな流れを見せている。また、河川では全国で唯一「日本の水浴場88選」に選ばれており、夏には泳ぎを楽しむ人も見られるほど。市民の憩いの場所として親しまれている長良川には、多くの魚たちが生息しており、アユ、オイカワなどを見ることができる。



長良川

長良川の歴史

長良川の川筋は古代以降、厚見郡と方県郡の郡境線となり、江戸時代以降、古川（現在の早田川筋）と呼ばれている。天文4（1535）年に大水が発生すると、南側の井口の用水取入口と堤防が壊れ、井川（現在の長良川）が出現した。この後、長良川は2筋となり江戸時代を迎える。そして寛永13（1636）年の大水で、古川の北側の堤防が切れ新しい川（現在の正木川筋）が誕生したのである。その後、元禄期になると、新しい川（新川）に水流の7・8割、井川に2・3割、古川にわずかという状況になった。さらに時代がくぐり、享和期になると水流のほとんどが井川に流れるようになった。

それを現在のように1筋の長良川に固定したのは昭和12（1937）年に始められ、同14年に完成した長良川右岸の堤防工事である。

上述の3筋の長良川のうち、北側の川筋を「古々川」と呼ぶ人が多くいるが、実は上記のように最も新しくできた川である。そして江戸時代には、新川あるいは一番北にあるため北川と呼んでいたのである。古々川と呼ぶようになったのは明治中期以降である。

長良川プロムナード

長良橋のふもとから上流へ約0.7kmの長良川右岸沿いは、自転車・歩行者専用道路（ホテルの利用者などの車両は通行可）になっており、ゆっくりと散策することができる。

正面には、金華山や岐阜城を望み、夜になると鵜飼を楽しむことができる。



長良川中流域における岐阜の文化的景観

平成26（2014）年3月18日、長良川を利用した問屋業や鵜飼漁により発展してきた金華山地区・鵜飼屋地区等が「長良川中流域における岐阜の文化的景観」として東海地区で初めて国の重要文化的景観に選定された。

おべにわた 小紅の渡し

長良川を渡る岐阜市で唯一の渡船場。一般県道文殊茶屋新田線の一部となっており、鏡島大橋と河渡橋との間にある。

小紅の渡しの運行開始時期は不明だが、承応2（1653）年に作成された『加納領明細絵図』に渡船場が描かれていることから、既に渡しが行われていたと考えられる。

また、毎月21日の弘法大師（空海）の月命日には、鏡島弘法を参拝する人々も利用している。



長良川公園

長良橋のやや下流の右岸にある長良川公園は、対岸に金華山や岐阜城を望む歴史的景観がすばらしく、休日には散策やランニング、テニスを楽しむ市民らで賑わう。

岐阜市出身のマラソン金メダリスト高橋尚子選手にちなんだ「高橋尚子ロード」もある。



トピックス

長良川流域が「世界の持続可能な観光地100選」に選出

長良川流域（岐阜市・関市・美濃市・郡上市）が、持続可能な観光（サステイナブル・ツーリズム）の国際認証機関であるGreen Destinationsが実施する表彰制度「2021年世界の持続可能な観光地100選」に選ばれた。

「長良川流域の文化と継承」および「長良川と共に生きる地域の人々」をテーマとしたストーリーが『流域文化を保全するとともに、観光の要素を取り入れ「変化」させていく手法は、重要な一歩である。』等の評価を受けた。

選定地域は、積極的に持続可能な観光に取り組む地域として、国際的に広く発信される。



2 金華山・百々ヶ峰

標高329m(国土地理院の三角点設置箇所)の金華山は、岐阜市の中心部に位置し、かつては稲葉山と呼ばれていた。山頂には斎藤道三・織田信長ゆかりの岐阜城がそびえ立ち、長良川と同様に岐阜市のシンボルの存在。

金華山にはロープウェーがあり、気軽に山頂までいくことができる。また、登山道も整備されており、気軽にハイキングを楽しめる。



金華山

金華山の自然

金華山は、江戸時代の元和5（1619）年までは幕府直轄領、以後は尾張藩領として「御山」と呼ばれ、明治以後は「御料林」、昭和22（1947）年以後は「国有林」として保護されてきた。特に尾張藩領の時代は「お留め山」として、鵜飼篝火材をのぞき、山への立ち入りや伐採が厳しく禁止されていた。そのため、市街地に接している山にもかかわらず、全国的にも珍しく立派な森林が残っている。

金華山は年間を通して緑で覆われている。このような森を照葉樹林(常緑広葉樹林)といい、岐阜市の温暖な気候を反映した西日本本来の自然植生である。金華山のように自然植生が最終的に安定した状態の林を「極相林」という。

■ヒノキ

金華山北側の斜面に多くある。木曾川上流の山奥に自然林が残っているが、岐阜市のように都市近くにあるのは非常に珍しい。

■ツブラジイ

金華山で一般的に見られる自然林で広い面積を占めている。5月になると花が咲き、山全体が黄金色に染まる。

■コナラ

尾根の岩石地などにアベマキとまじって多く見られる。山頂の岐阜城近くの尾根道にたくさん生えていて、春の芽吹き、夏の青葉、秋のどんぐり、落葉後の冬木立と季節ごとに姿が変化する。

金華山の登山道

気軽にハイキングが楽しめる金華山。家族向きの緩やかな登山道から、両手両足で取り付かないと登ることができないような急斜面の登山道などコースごとに特徴や魅力がある。

(※難易度は金華山登山道の中でのランク)

■七曲り登山道 (道のり：1,900m/所要時間：約60分/難易度 ★☆☆☆☆)

岐阜公園の南にある金華山ドライブウェイ入口が登山口となる。距離は約1,900mあるが、道もしっかりしていて家族向きのコース。



登山の風景

■めい想の小径 (道のり：2,300m/所要時間：約60分/難易度 ★★★☆☆)

岐阜公園から金華山の北側を回って頂上をめざすコース。眼下には長良川、北方には北アルプスや御獄山が見られる、眺めのよい登山道。頂上付近に険しいところもあり、小学校高学年以上のコース。転ばないように注意が必要。

■百曲り登山道 (道のり：1,100m/所要時間：約40分/難易度 ★★★★★)

その名のとおり曲がりくねった登山コース。登り口は名和昆虫博物館の少し南の山麓にあり、距離は約1,100mと短い、足に自信のある人向きのコース。

■馬の背登山道 (道のり：1,100m/所要時間：約40分/難易度 ★★★★★)

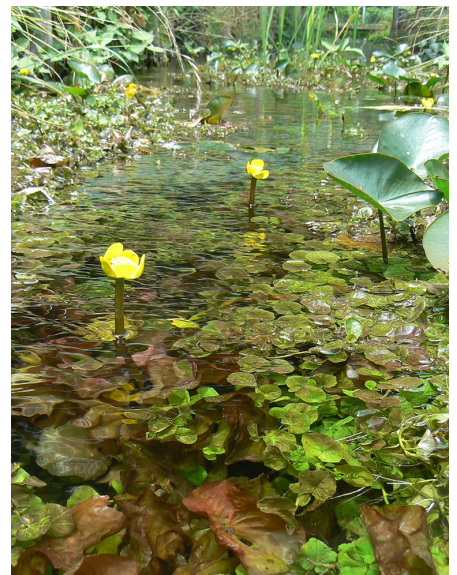
もっとも険しい登山コース。ぎふ金華山ロープウェー山麓駅より少し北側が登り口で、途中は両手両足を使って登らなくてはならないところもある。登山に慣れた人向きのコース。

達目洞

金華山東の山麓にある達目洞は開発も少なく、現在も昔ながらの里山の自然を保っている。湧き水が源流という小さな逆川には、岐阜市が貴重野生動植物種に指定しているヒメコウホネが生育しており、「岐阜市自然環境の保全に関する条例」により生育地を「特別保全地区」に指定した。

達目洞はこのほかにも、コクロオバボタルやカヤネズミ、ナガボノアカワレモコウ、ノハナショウブなど多くの貴重な動植物が生息・生育している。

また、達目洞(逆川上流)は平成20(2008)年に環境省から「平成の名水百選」に選定された。



ヒメコウホネ

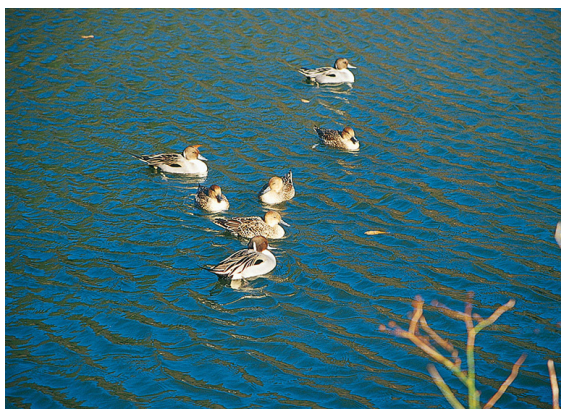
どどがみね 百々ヶ峰

標高は418mあり、岐阜市で最も高い山。山麓には松尾池や岐阜県の名水50選に選ばれた萩の滝、東海自然歩道などがある。中腹には、冬になると葉を落とす落葉樹が多く、麓には竹林、尾根にはアカマツの林がある。



松尾池と^{はぎ}萩の滝

松尾池は、明治18（1885）年に、オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケの指導により造られた農業用ため池である。池の前方にある砂防堰堤も、ヨハネス・デ・レーケの指導で造られたと伝えられている。明治24（1891）年の濃尾大震災で堤体に亀裂が生じ貯水できなくなったが、昭和7（1932）年に当時の岐阜市長 松尾国松が修復を手掛け、「松尾池」と呼ばれるようになった。現在の堤体は、令和7（2025）年度に耐震化工事が完了したものである。



上流の岩舟溪谷には清閑な^{せいかん}さまの萩の滝があり、このまま谷を登ると^{どどがみね}百々ヶ峰山頂に至る。山頂からは、金華山などが一望できる爽快な風景が広がっている。このあたりには東海自然歩道も通っていて、絶好の散歩コースとなっている。春は桜、秋は紅葉の名所である。

東海自然歩道

東海自然歩道は、東京の「^{たか お こくていこうえん}明治の森高尾国定公園」から大阪の「^{みの お こくていこうえん}明治の森箕面国定公園」までの太平洋ベルト地帯の背後を結び、豊かな自然と史跡を訪ねながら心身の健康と安らぎを得るため、昭和49（1974）年に延長1,370kmの施設として整備された。その後整備を重ね、現在では11都府県にまたがり、総延長1,697kmに及んでいる。

岐阜市を通る東海自然歩道は、芥見地区の^{おいぼら}老洞から市内北部を横断して、^{あじろ}網代地区の伊洞に至る延べ31.3km。小島山山頂からは南側の眺望がよく長良川や金華山が望め、百々ヶ峰に登ると天気の良い日には白山・御獄山がよく見える。

ながら川ふれあいの森

岐阜市北東部に位置し、百々ヶ峰を擁しており、森についての知識が学べる四季の森センターやキャンプ場、展望広場などが整備されている。東海自然歩道を利用した、森の中を散策する複数のルートがある。



トピックス

岐阜市クアオルト[®]健康ウォーキング

クアオルト健康ウォーキングとは、ドイツのクアオルト（療養地・健康保養地）で自然の地形や風などを活用して行われている運動療法を基に考案された、健康づくりのためのウォーキング。岐阜市では、豊かな自然や歴史文化資産を活用した、金華山や百々ヶ峰を含む2コースと、梅林公園や清水川を含む、まちなかの2コースの計4コースがある。定期開催のクアオルト健康ウォーキング講座では、血圧、心拍数、体表面温度を測定し、自然の中でガイドや参加者と交流しながら、ウォーキングを楽しむ。

3 桜・梅・紅葉の名所めぐり

岐阜市内には、奈良時代の伝説が残る中将姫誓願桜や、鵜飼にゆかりのある桜、約1,000本・約50種類の梅がある梅林公園など、花の名所が至る所にあり、毎年開花のシーズンには多くの花見客で賑わう。



中将姫誓願桜

ちゅうじょうひめせいがんざくら 中将姫誓願桜

大洞の願成寺境内には、奈良時代に中将姫が祈願して植えたという伝説が残る中将姫誓願桜がある。樹の高さは8.1m、根元の周囲は1.5mという巨木で、花弁の数が20～30弁あり、ヤマザクラから変化した珍種のサクラであることが確認されている。プルヌス・フロリドラ・ミヨシという学名で世界に発表され、昭和4（1929）年に国から天然記念物の指定を受けた。



鵜飼桜

岐阜護国神社の境内にあり、昔は花数の多さで鵜飼で獲れる鮎の量を占ったことからこの名がついたといわれる。

樹齢百年といわれるエドヒガンザクラで、幹周り約2.5m、高さ約8mの大木。早咲きの桜で、毎年いち早く春の訪れを知らせてくれる。



水道山(上加納山)の桜

金華山の南に位置し、水道山の通称で知られている上加納山。見頃になるとヤマザクラやソメイヨシノが山全体をピンク色に染め、岐阜市内中心街からもよく見える。



日中友好庭園の桜

岐阜市と中国杭州市の友好都市提携10周年を記念して造られた庭園。桜はソメイヨシノが大半でその他はシダレザクラ、コヒガンザクラなど。

池に舞い落ちた桜の花びらが、水面に浮かぶピンクのじゅうたんのように見える。



長良川堤の桜

毎年見頃になると河畔から岐阜公園日中友好庭園一帯は満開の桜で埋め尽くされ、昼夜とも多くの花見客で賑わう。



伊奈波神社参道の桜

伊奈波神社へと続く石畳の敷かれた歩道には、約60本のシダレザクラが植えられており、春になると美しい桜が人々を楽しませている。



清水川の桜

JR岐阜駅南に流れる清水川沿いにある約220本のソメイヨシノの桜並木。

岐阜地方気象台が定めたサクラの標本木がある。



かなめざくら 要桜

初代柳津村長の伊藤要の発案により、明治22（1889）年より約9年間かけて、境川の堤防に植えられた。名前の由来は、発案者の伊藤要の名をとって、要桜と呼ばれるようになった。



たかくわほしざくら 高桑星桜

岐阜市柳津町高桑の堤にある高桑桜。その中でも特に貴重な桜が「高桑星桜」。その名のとおり星型をした白色の花で、開花時期が長く、最初の開花から約2週間後、新たに半分程度の大きさの花が咲く。

戦時中に、数が減少した高桑桜ではあるが、現在は地元の保存会により大切に守り育てられている。



梅林公園

明治時代に篠田家のささ が たにえん篠ヶ谷園として整備され、昭和23（1948）年に岐阜市に寄贈された梅林。毎年2月中旬から3月上旬にかけて、白、淡紅、紅色の八重や一重など約50種類の梅が次々に咲き、岐阜県内外からの来園者を魅了している。シーズン中には「ぎふ梅まつり」が開催され、さまざまなイベントが行われている。また蒸気機関車が展示されている園内には、松尾芭蕉の句碑などさまざまな石碑も見られる。



大龍寺のドウダンツツジ

「だるま供養」で知られる大龍寺は、ドウダンツツジの名所としても有名で、境内の庭園や裏山には約1,200本のドウダンツツジが植えられており、中には樹齢350年以上の古木もある。毎年春と秋には庭園が一般公開され、杉苔とドウダンツツジの庭を楽しむことができる。



岐阜城・岐阜公園の紅葉

秋、金華山山頂の岐阜城では、城壁の白さに真っ赤な紅葉が重なる。山麓の岐阜公園も紅葉に包まれ、朱色の三重塔と重なり合った風景は特に美しい眺めである。



本郷町ケヤキ並木

昭和56（1981）年に101本のケヤキが植樹されたのが始まりで、現在では見事なケヤキ並木が560mほど続く通りとなっている。若葉から紅葉、落葉、枯木と四季折々、見る人を楽しませてくれるこの並木は「新・日本街路樹百景」「緑の都市賞」など数々の賞のほか、国土交通省から平成15（2003）年度の「緑陰道路プロジェクト・モデル地区」の指定を受け、地元の人々や行政によって大切に維持管理されている。



自然とふれあえる施設

岐阜市内には、恵まれた豊かな自然を活かして、気軽に自然とふれあうことができる施設や公園などがある。ここでは、その一部を紹介する。

■岐阜市畜産センター公園

岐阜市北部に位置する総合公園。市内屈指の広さを有する美しい芝生大広場は訪れる方の憩いの場所として慕われている。さらに、バラ園、近くにはみつばちの家、薬草園が広がるなど、豊かな自然を身近に体験し、楽しむことができる。



■岐阜ファミリーパーク

岐阜市北東部に位置する総合公園。豊かな自然に囲まれた環境の中で、スポーツ、レジャー、自然学習とさまざまな体験ができる。園内の「こどもゾーン」では、「ボブスレー」「スーパーモビル」「ジェロニモ砦」といった遊具のほか、東海三県で最長となる総延長180m超の「長大ローラーすべり台」があり、幅広い年齢層が楽しむことができる。

■岐阜市少年自然の家

昭和63（1988）年に青少年の健全育成を願って開設した施設。研修、宿泊施設やキャンプ場などが設けられている。

■長良公園

岐阜大学の跡地に造られた都市公園で、金華山が望める静かな住宅地にある。この公園の北側は花のゾーンとなっていて、公園全体が見渡せる「花のテラス」やビーナス像^{ちんしょう}の周囲にきれいな花の楽園を演出した「沈床花園」がある。



■岐阜薬科大学 薬草園

教育研究を目的に、昭和46（1971）年に岐阜薬科大学付属施設として設置された。教育研究施設ではあるが、市民からの見学希望が多数寄せられたため、昭和60（1985）年から一般公開を実施している。来園者の誘導や薬草の説明などに関しては、ガイドボランティア（薬草を学ぶ会）が組織されている。

